

イオン好配当グリーン・バランス・オープン(愛称:みどりのふたば)

【投信協会商品分類】 追加型投信／内外／資産複合

【設定日】 2008年4月18日 【決算日】 原則1月、3月、5月、7月、9月、11月の各11日

運用実績

基準価額および純資産総額

基準価額	10,859円
純資産総額	5.83億円

※ 基準価額は、分配金控除後です。

期間別騰落率

	当ファンド
過去1ヵ月間	1.28%
過去3ヵ月間	4.21%
過去6ヵ月間	7.99%
過去1年間	18.63%
過去3年間	20.88%
過去5年間	86.79%

設定来 59.36%

※ ファンドの騰落率は、当ファンドに分配実績があった場合に、税引前の分配金を再投資したものと計算しており、実際の騰落率とは異なります。

※ 設定来のファンド騰落率は、10,000円を基準として計算しております。

分配実績(直近5期分/1万口当たり、税引前)

2017年01月	30円
2017年03月	300円
2017年05月	30円
2017年07月	30円
2017年09月	300円
設定来累計	3,860円

※ 収益分配金額は委託会社が決定します。分配を行わないこともあります。

基準価額・純資産の推移

2008/04/18～2017/10/31



■ 純資産総額(右軸) ■ 基準価額(左軸) ■ 基準価額(税引前分配金再投資)(左軸)

※ 基準価額(税引前分配金再投資)は、分配実績があった場合に、税引前の分配金を決算日の基準価額で再投資したものと計算しております(以下同じ)。

※ 基準価額及び基準価額(税引前分配金再投資)の計算において信託報酬(後掲「ファンドの費用参照」)は控除されております(以下同じ)。

※ 当ファンドは、ベンチマークを設定していません。

※ 分配実績がない場合、あるいは設定来累計の分配金額が少額の場合、基準価額及び基準価額(税引前分配金再投資)のグラフが重なって表示される場合があります。

構成比率

	純資産比
損保ジャパン高金利外国債券マザーファンド	49.64%
損保ジャパン・エコ好配当マザーファンド	49.35%
コール・ローン等	1.01%

主要な資産の状況①: 損保ジャパン・エコ好配当マザーファンド

構成比率(マザーファンド)

	純資産比
株式	98.33%
コール・ローン等	1.67%

予想配当利回り

	マザーファンド	TOPIX(参考)
配当利回り	2.65%	1.86%

※ ファンドの予想配当利回りは、個別銘柄の予想配当利回りを、コール・ローン等を除いた保有資産のウェイトで加重平均したものです。(各種情報を基に委託会社が算出)

※ 当ファンドの将来の分配を保障するものではありません。

業種別構成比率(マザーファンド)

業種	純資産比
情報・通信業	12.5%
卸売業	11.8%
銀行業	11.7%
輸送用機器	8.2%
医薬品	6.1%
電気・ガス業	5.6%
鉄鋼	5.6%
小売業	5.1%
食料品	4.5%
その他	27.3%

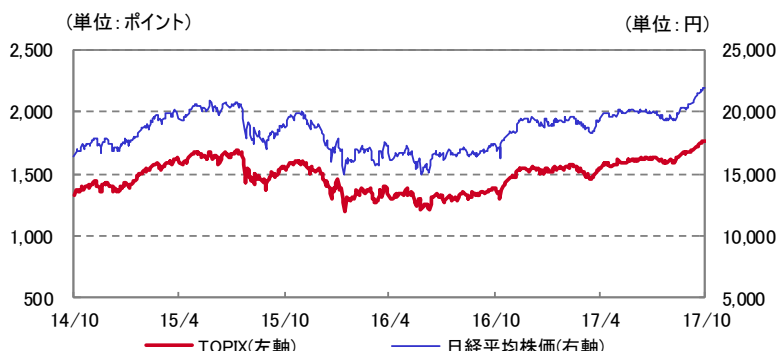
組入上位10銘柄(マザーファンド)

銘柄名	業種	純資産比
1 日本電信電話	情報・通信業	5.0%
2 沢井製薬	医薬品	4.7%
3 KDDI	情報・通信業	4.6%
4 日本たばこ産業	食料品	4.5%
5 三菱商事	卸売業	4.4%
6 三井物産	卸売業	4.3%
7 東日本旅客鉄道	陸運業	4.2%
8 三井住友フィナンシャルG	銀行業	3.8%
9 ローソン	小売業	3.8%
10 JXTGホールディングス	石油・石炭製品	3.7%
組入銘柄数		41銘柄

イオン好配当グリーン・バランス・オープン(愛称:みどりのふたば)

<ご参考>

日経平均株価・TOPIX動向(過去3年) 2014/10/31~2017/10/31



日経平均株価・TOPIXの騰落率(対前月末)

	日経平均株価(円)	TOPIX(ポイント)
2017年9月29日	20,356.28	1,674.75
2017年10月31日	22,011.61	1,765.96
騰落率	8.13%	5.45%

TOPIX業種別騰落率(対前月末、東証33業種)

上位5業種	
業種	騰落率
1 非鉄金属	9.96%
2 電気機器	8.44%
3 金属製品	7.81%
4 機械	7.72%
5 ガラス・土石製品	7.49%

下位5業種	
業種	騰落率
1 鉱業	0.70%
2 海運業	1.25%
3 石油・石炭製品	1.45%
4 空運業	1.84%
5 鉄鋼	2.99%

出所: Bloomberg

市場動向と今後の見通し

○先月の市場動向

10月の国内株式市場は月間ベースで+5.45%となりました。好調な米景気を背景とした米長期金利の上昇及び円安に加え、衆議院選挙での与党勝利による安倍政権の経済政策継続への期待や国内景気・企業業績の改善を背景に、国内株式市場は上昇し、年初来高値を更新しました。

上旬は、9月の企業短期経済観測調査(用語解説1)やISM(米供給管理協会)製造業景況指数など国内外の経済指標が市場予想を上回り、株価は上昇しました。

中旬は、IMF(国際通貨基金)による世界経済見通しの上方修正などを背景に景気の先行きに楽観的な見方が強まりました。米経済が堅調に推移する中、FRB(米連邦準備理事会)による緩やかな政策金利引き上げが続くことへの期待から米株高となり、国内株式市場も上値を迫る展開となりました。

下旬は、衆議院選挙での与党勝利を受けてアベノミクスの継続・政治安定への期待が高まりました。日米の企業決算が概ね好調であったことやトランプ政権による税制改革実現への期待、ECB(欧州中央銀行)による量的緩和(用語解説2)の縮小が緩やかに進むことへの期待から国内株式市場は上昇基調を保ちました。

○今後の見通し

国内株式市場は、年内は揉み合いとなる可能性があるものの、来年に向けては上昇余地を残していると考えています。

国内企業の業績は、第2四半期決算においても幅広い業種で市場予想を上回る着地となるなど、好調に推移していますが、東証一部上場企業の平均PER(株価収益率)は過去5年間の平均を超えてきており、今期の好業績については株価にほぼ織り込まれたと見ています。ここまでの上昇ペースが急であったことや、海外市場比で見ればバリュエーション面のディスカウントがほぼ解消したこと、史上最高値圏にある米国株に高値警戒感があることなどから、短期的には上値が重くなると予想します。

来年に向けては、今年と同様、地政学リスクや欧米の政治リスク等への懸念は残りますが、世界的な景気拡大を確認しながら来期企業業績への期待が高まる過程において、再度上値をうかがう展開になると予想します。

○今後注目されるニュース

10月中旬から本格化した企業の決算発表が11月中旬まで続きます。また、11月30日にはOPEC(石油輸出国機構)の総会が開催され、協調減産の期間の延長を決定するかどうか注目です。

用語解説

1. 企業短期経済観測調査

業種・規模別に選んだ約1万社の民間企業を対象に、日本銀行が四半期ごとに実施する景気に関するアンケート調査です。一般に「日銀短観」もしくは「短観」の名で知られています。とくに企業の景況感を示す業況判断指数DI(Diffusion Index)は企業決算などではわからない経営者心理を的確に表すとされ、市場関係者から注目されています。

2. 量的緩和

量的緩和とは、中央銀行が市場に供給する資金量を増やすことによって金融緩和を行うことで、非伝統的な金融政策の一つです。通常、中央銀行は政策金利を引き下げることによって金融緩和を行います。政策金利にこれ以上の引き下げ余地がない場合に景気刺激やデフレ脱却を目的として導入されます。

イオン好配当グリーン・バランス・オープン(愛称:みどりのふたば)

環境コメント

環境に関する国際会議の東京都開催について

世界大都市気候先導グループ C40（シー・フォーティ）は、世界の都市が連携して温室効果ガスの排出削減に取り組むネットワークとして2005年に設立され、現在、世界91都市が加盟しています。日本国内では、東京都（2006年加盟）と横浜市（2008年加盟）が、C40に加盟しています。世界の都市部で生活する人々は6億5千万人を超えており、この人口は今後ますます増加し、2050年までに世界人口の3分の2以上が都市部に集中することが予測されています。

10月23日に、世界大都市気候先導グループ C40 の運営委員として、パリで開催された運営委員会及び関連イベントに出席していた小池東京都知事は、パリ市長との会談後の現地記者会見において、2018年5月に、東京都が環境に関する国際会議を開催するとの発表を行いました。この会議では、廃棄物処理と大気汚染対策がテーマとされる予定です。急速な経済成長を続けるアジア地域では、都市発展に伴う廃棄物問題、大気汚染問題が大都市共通の環境課題になっています。そのため、アジアの大都市が、経済成長を続けながら健全な都市環境と持続可能な都市を達成するための効果的な政策と知見について、情報を共有し、解決策を議論することを目的としています。会議への参加者は、アジア大都市等10都市程度、欧米都市3都市程度、著名な専門家、国際機関の代表等が、現段階では予定されています。

(出所：東京都 HP)

主要な資産の状況②：損保ジャパン高金利外国債券マザーファンド

構成比率(マザーファンド)

	純資産比
公社債	91.70%
国債証券	91.70%
コール・ローン等	8.30%

残存年数別構成比率(マザーファンド)

残存年数	純資産比
1年未満	0.0%
1～3年	17.9%
3～7年	53.1%
7～10年	11.4%
10年以上	9.3%

債券市場別構成比率(マザーファンド)

債券市場	純資産比
アメリカ	37.8%
オーストラリア	18.2%
イギリス	15.3%
フランス	9.8%
ポーランド	5.4%
その他	5.1%

通貨別構成比率(マザーファンド)

通貨	純資産比
アメリカ・ドル	37.8%
オーストラリア・ドル	18.2%
イギリス・ポンド	15.3%
ユーロ	15.0%
ポーランド・ズロチ	5.4%

組入上位10銘柄(マザーファンド)

銘柄名	発行国	種類	通貨	償還日	純資産比
1 US TSY BOND 23/08/15	アメリカ	国債証券	アメリカ・ドル	2023/08/15	15.2%
2 AUSTRALIAN GOVT. 5.75%	オーストラリア	国債証券	オーストラリア・ドル	2022/07/15	9.3%
3 UK TREASURY 6.0	イギリス	国債証券	イギリス・ポンド	2028/12/07	9.3%
4 AUSTRALIAN GOVT. 5.75	オーストラリア	国債証券	オーストラリア・ドル	2021/05/15	8.9%
5 US TREASURY N/B 8.125% 08/15/19	アメリカ	国債証券	アメリカ・ドル	2019/08/15	8.5%
6 FRANCE O.A.T. 6.0	フランス	国債証券	ユーロ	2025/10/25	7.4%
7 TREASURY 8.0	イギリス	国債証券	イギリス・ポンド	2021/06/07	6.0%
8 US TREASURY N/B 7.625%	アメリカ	国債証券	アメリカ・ドル	2025/02/15	4.0%
9 US TREASURY N/B 7.875	アメリカ	国債証券	アメリカ・ドル	2021/02/15	3.4%
10 BTPS 4.5	イタリア	国債証券	ユーロ	2020/02/01	3.2%
組入銘柄数					18銘柄

イオン好配当グリーン・バランス・オープン(愛称:みどりのふたば)

| ポートフォリオの状況(マザーファンド)

平均残存期間	5.2
修正デュレーション	4.4
平均終利	1.5%
平均直利	5.3%

※ コール・ローン等を除いて算出しております。

※ 平均終利、平均直利は、ファンド組入銘柄等の利回りの加重平均等により算出したものであり、ファンド全体の期待利回りを示すものではありません。

債券市場の動向

【米国債券市場】

10月の債券利回りは、前月末とほぼ同水準となりました。

中旬まで、方向感に欠ける相場展開でしたが、その後、米上院で2018年度予算決議案が可決されたことで、税制改革進展に対する期待が高まったことや、堅調な経済指標の発表などを受けて、利回りは上昇基調で推移しました。しかし、月末近くに、トランプ大統領がパウエル氏を次期FRB(米連邦準備理事会)議長に指名する可能性が高いと報道されると、候補者の中では金融引き締めにも最も慎重と目されていたことから、利回りは低下しました。

【欧州債券市場】

10月のドイツの債券利回りは、低下(価格は上昇)しました。

26日に開催したECB(欧州中央銀行)理事会では、資産買入規模の縮小と期間の延長が決定されました。資産買入政策の維持や、償還分の再投資は継続することが強調され、ECBの政策正常化に対する慎重な姿勢が示されたことなどから、利回りは低下しました。

【英国債券市場】

10月の債券利回りは、前月末とほぼ同水準となりました。

月半ばまで、方向感に欠ける相場展開でした。市場では、11月開催の金融政策委員会で、BOE(イングランド銀行)が利上げする観測が高まったものの、一部のBOEメンバーから利上げに慎重な発言があったことや、欧州利回りの低下を受けて、利回り上昇基調とはならず、月末の水準は前月末とほぼ同水準となりました。

【豪州債券市場】

10月の債券利回りは、低下(価格は上昇)しました。

月内に発表された小売売上高や消費者物価指数が市場予想を下回ったことや、26日に、デベル中央銀行副総裁が、慎重な物価見通しを示したことなどから、利回りは、月を通じて、低下基調が継続しました。

為替相場の動向

【米ドル円相場】

10月のドル円相場は、小幅ドル高円安となりました。

ドル円は、月半ばまで方向感に欠ける相場展開でした。その後、米上院で2018年度予算決議案が可決されたことで、税制改革進展に対する期待が高まったことや、堅調な経済指標の発表などを受けて、月末にかけてドル高円安基調となりました。

【ユーロ円相場】

10月のユーロ円相場は、前月末とほぼ同水準となりました。

ユーロ円は、月半ばまで方向感に欠ける相場展開でした。その後、円安ドル高が進んだことから、円は対ユーロでもやや売られる展開となりました。しかし、26日に開催したECB(欧州中央銀行)理事会では、市場予想並みの資産買入規模の縮小と期間の延長が決定されたものの、政策正常化に対する慎重な姿勢が示されたことなどから、ややユーロ安円高となり、月末の水準は、前月末とほぼ同水準となりました。

【英ポンド円相場】

10月のポンド円相場は、前月末とほぼ同水準となりました。

ポンド円は、上旬、EU離脱交渉を巡る不透明感の高まりが嫌気されたことなどから、ポンド安円高基調となりました。しかし、その後、11月開催の金融政策委員会で、BOE(イングランド銀行)による利上げが意識されたことなどから、月末にかけてポンド高円安基調が継続し、月末の水準は、前月末とほぼ同水準となりました。

【豪ドル円相場】

10月の豪ドル円相場は、小幅豪ドル安円高となりました。

豪ドル円は、中旬までは、方向感に欠ける相場展開でした。その後、消費者物価指数が市場予想を下回ったことや、デベル中央銀行副総裁が、慎重な物価見通しを示したことなどから、月末にかけては豪ドル安円高基調となりました。

イオン好配当グリーン・バランス・オープン(愛称:みどりのふたば)

ファンドの特色

- 日本の株式および日本を除く世界各国の公社債に投資します。
 - 主に日本の株式と外国の債券に概ね50%ずつ分散投資をします。
 - 環境問題に積極的に取り組んでいる日本の企業の株式に投資します。
 - 主として北米（米国、カナダ）、欧州、アジア/オセアニア（日本を除く）の国債、州政府債、政府保証債、政府系機関債、国際機関債等に分散投資します。
 - 投資対象国は、原則としてA格相当以上の長期債格付が付与された国とし、シティ世界国債インデックス採用国を中心とします。
 - 実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。
 - 利息・配当収入等、売買益（評価損益を含みます。）等を原資として分配します。[※]
 - 年6回（原則、1月、3月、5月、7月、9月、11月の各11日）決算を行います。
 - 毎決算日に委託会社が利息・配当収入等を中心に安定分配を行い、毎年3月、9月の決算時には売買益（評価損益を含みます。）等を上乗せして分配することを基本方針とします。
- ※基準価額水準、市場動向等によっては分配を行わないことがあります。

投資リスク

《基準価額の変動要因》

当ファンドの基準価額は、組入れられる有価証券等の値動き等による影響を受けますが、これらの運用による損益はすべて投資者の皆様に帰属いたします。したがって、投資者の皆様は投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。また、投資信託は預貯金とは異なります。

当ファンドの主なリスクは以下のとおりです。

※基準価額の変動要因は、以下に限定されるものではありません。

◆価格変動リスク

株式や公社債の価格は、国内外の政治・経済情勢、市況等の影響を受けて変動します。

また、一般に、金利が上昇すると、公社債の価格は下落します。組入れている株式や公社債の価格の下落は、ファンドの基準価額が下落する要因となります。

◆信用リスク

株式や公社債の価格は、発行体の財務状態、経営、業績等の悪化及びそれらに関する外部評価の悪化等により下落することがあります。組入れている株式や公社債の価格の下落は、ファンドの基準価額が下落する要因となります。

また発行体の倒産や債務不履行等の場合は、株式や公社債の価値がなくなるともあり、ファンドの基準価額が大きく下落する場合があります。

◆流動性リスク

国内外の政治・経済情勢の急変、天災地変、発行体の財務状態の悪化等により、有価証券等の取引量が減少することがあります。この場合、ファンドにとって最適な時期や価格で、有価証券等を売却できないことがあり、ファンドの基準価額が下落する要因となります。

また、取引量の著しい減少や取引停止の場合には、有価証券等の売買ができなかったり、想定外に不利な価格での売買となり、ファンドの基準価額が大きく下落する場合があります。

◆為替変動リスク

外貨建資産の価格は、当該外貨と日本円との間の為替レートの変動の影響を受けて変動します。

為替レートは、各国の政治・経済情勢、外国為替市場の需給、金利変動その他の要因により、短期間に大幅に変動することがあります。当該外貨の為替レートが、円高になった場合は、ファンドの基準価額が下落する要因となります。

《その他の留意点》

- ◆クーリングオフ制度（金融商品取引法第37条の6）の適用はありません。
- ◆マザーファンドに投資する別のベビーファンドの追加設定・解約等により、当該マザーファンドにおいて売買等が生じた場合等には、当ファンドの基準価額に影響を受ける場合があります。

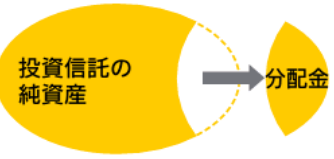
詳細については、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

イオン好配当グリーン・バランス・オープン(愛称:みどりのふたば)

投資信託の収益分配金に関する留意事項

●分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。

投資信託で分配金が支払われるイメージ

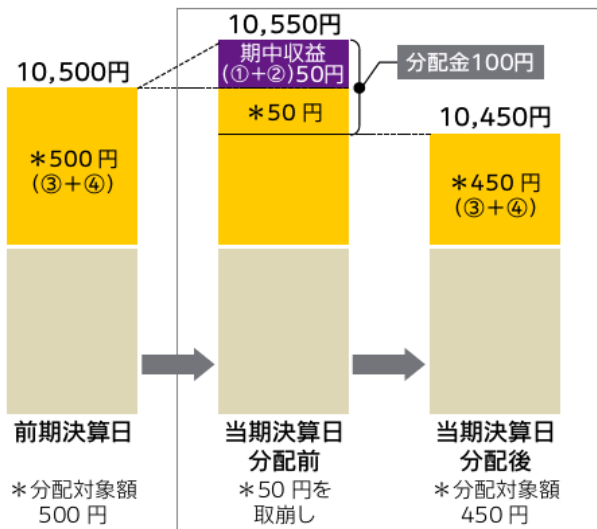


●分配金は、計算期間中に発生した収益(経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益)を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。

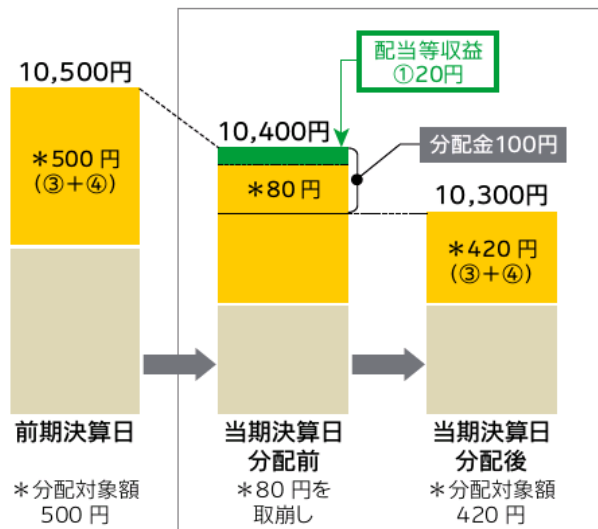
また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。

計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合

前期決算日から基準価額が上昇した場合



前期決算日から基準価額が下落した場合



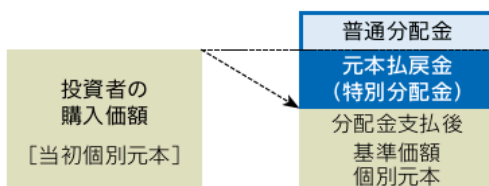
(注) 分配金は、分配方針に基づき、分配対象額から支払われます。分配対象額は、以下①～④です。

①経費控除後の配当等収益、②経費控除後の評価益を含む売買益、③分配準備積立金、④収益調整金

※上記はイメージです。実際の分配金額や基準価額を示唆するものではありませんのでご留意下さい。

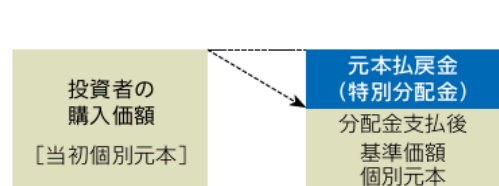
●投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりが小さかった場合も同様です。

分配金の一部が元本の一部払戻しに相当する場合



※元本払戻金(特別分配金)は実質的に元本の一部払戻しとみなされ、その金額だけ個別元本が減少します。また、元本払戻金(特別分配金)部分は非課税扱いとなります。

分配金の全部が元本の一部払戻しに相当する場合



普通分配金 個別元本(投資者のファンドの購入価額)を上回る部分からの分配金です。

元本払戻金(特別分配金) 個別元本を下回る部分からの分配金です。分配後の投資者の個別元本は、元本払戻金(特別分配金)の額だけ減少します。

(注) 普通分配金に対する課税については、後掲の「●税金」をご参照ください。

イオン好配当グリーン・バランス・オープン(愛称:みどりのふたば)

お申込みメモ

購入単位	販売会社が定める単位 ※ 詳細につきましては、販売会社までお問い合わせください。
購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額
購入代金	販売会社が定める日までにお支払いください。
換金単位	販売会社が定める単位 ※ 詳細につきましては、販売会社までお問い合わせください。
換金価額	換金請求受付日の翌営業日の基準価額から信託財産留保額を控除した額
換金代金	換金請求受付日から起算して、原則として5営業日目からお支払いします。
申込不可日	ニューヨーク証券取引所、英国証券取引所、フランクフルト証券取引所、ユーロネクスト・パリのいずれかの取引所あるいはニューヨークまたはロンドンの銀行の休業日においては、お申込みの受付ができません。
申込締切時間	原則として午後3時まで（販売会社により異なる場合がありますので、詳細につきましては販売会社までお問い合わせください。）
換金制限	信託財産の資金管理を円滑に行うため、大口の換金請求を制限する場合があります。
購入・換金申込受付の中止及び取消し	委託会社は、取引所における取引の停止、外国為替取引の停止、取引市場における流動性が極端に減少した場合、取引市場の混乱、自然災害、テロ、大規模停電、システム障害等により基準価額の算出が困難となった場合、その他やむを得ない事情があると判断したときは、購入・換金の受付を中止すること、及び既に受付けた当該申込みの受付を取り消すことができるものとします。
信託期間	無期限（設定日 平成20年4月18日）
繰上償還	受益権の残存口数が10億口を下回ることとなった場合、繰上償還することが受益者のため有利であると認めるとき、またはやむを得ない事情が発生したときは、繰上償還させることがあります。
決算日	原則1月、3月、5月、7月、9月、11月の各11日（休業日の場合は翌営業日）
収益分配	毎決算時（年6回）、収益分配方針に基づいて収益の分配を行います。 ※ 分配金を受取る一般コースと、分配金を再投資する自動けいぞく投資コースがあります。 販売会社によっては、どちらか一方のみのお取扱いとなる場合があります。 各コースのお取扱いにつきましては、販売会社までお問い合わせください。
信託金の限度額	2,000億円
公告	日本経済新聞に掲載します。
運用報告書	原則、毎年3月、9月の決算時及び償還時に、交付運用報告書を作成し、あらかじめお申し出いただいたご住所に販売会社を通じて交付します。
課税関係	課税上は株式投資信託として取扱われます。公募株式投資信託は税法上、少額投資非課税制度の適用対象です。配当控除、益金不算入制度の適用はありません。

イオン好配当グリーン・バランス・オープン(愛称:みどりのふたば)

Ⅰ ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用		
購入時手数料	購入価額に 2.16% (税抜2.0%) を上限 として販売会社が定めた手数料率を乗じた額です。 ※ 詳細につきましては、販売会社までお問い合わせください。	販売会社によるファンドの商品説明・投資環境の説明・事務処理等の対価
信託財産留保額	換金請求受付日の基準価額に 0.2% を乗じた額です。	
投資者が信託財産で間接的に負担する費用		
運用管理費用 (信託報酬)	ファンドの日々の純資産総額に対して 年率1.3716% (税抜1.27%) を乗じた額とし、毎計算期末または信託終了のときに、ファンドから支払われます。	運用管理費用(信託報酬)＝運用期間中の基準価額×信託報酬率
	委託会社 年率0.60% (税抜)	ファンドの運用の対価
	販売会社 年率0.60% (税抜)	購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理等の対価
	受託会社 年率0.07% (税抜)	運用財産の管理、委託会社からの指図の実行等の対価
その他の費用・手数料	以下の費用・手数料等が、ファンドから支払われます。 ● 監査費用 ファンドの日々の純資産総額に定率(年0.00378%(税抜0.0035%))を乗じた額とし、実際の費用額(年間27万円(税抜25万円))を上限とします。なお、上限額は変動する可能性があります。 ● その他の費用※ 売買委託手数料、外国における資産の保管等に要する費用、信託財産に関する租税等 ※ 「その他の費用」については、運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を表示することができません。	<ul style="list-style-type: none"> ● 監査費用： 監査法人に支払うファンド監査にかかる費用 ● 売買委託手数料： 有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料 ● 保管費用： 有価証券等の保管等のために、海外の銀行等に支払う費用

※ 当該手数料等の合計額については、投資者の皆様がファンドを保有される期間、売買金額等に応じて異なりますので、表示することができません。

●税金

- 税金は表に記載の時期に適用されます。
- 以下の表は、個人投資者の源泉徴収時の税率であり、課税方法等により異なる場合があります。

時期	項目	税金
分配時	所得税及び地方税	配当所得として課税 普通分配金に対して20.315%
換金(解約)時 及び償還時	所得税及び地方税	譲渡所得として課税 換金(解約)時及び償還時の差益(譲渡益)に対して20.315%

※ 少額投資非課税制度「愛称:NISA(ニーサ)」をご利用の場合

毎年、一定額の範囲で新たに購入した公募株式投資信託などから生じる配当所得及び譲渡所得が一定期間非課税となります。ご利用になれるのは、販売会社で非課税口座を開設するなど、一定の条件に該当する方が対象となります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

※ 法人の場合は上記とは異なります。

※ 税法が改正された場合等には、税率等が変更される場合があります。税金の取扱いの詳細については、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

イオン好配当グリーン・バランス・オープン(愛称:みどりのふたば)

●委託会社受賞歴



- 損保ジャパン日本興亜アセットマネジメントはR & Iファンド大賞2017の「投資信託／総合部門」においてバランス総合「優秀賞」を受賞しました。



- 損保ジャパン日本興亜アセットマネジメントはR & Iファンド大賞2017の「投資信託／総合部門」において外国債券総合「優秀賞」を受賞しました。



- 損保ジャパン日本興亜アセットマネジメントはR & Iファンド大賞2010の「投資信託／総合部門」において国内株式総合「優秀賞」を受賞しました。

「R & Iファンド大賞」は、R & I等が信頼し得ると判断した過去のデータに基づく参考情報（ただし、その正確性及び完全性につきR & I等が保証するものではありません）の提供を目的としており、特定商品の購入、売却、保有を推奨、又は将来のパフォーマンスを保証するものではありません。当大賞は、信用格付業ではなく、金融商品取引業等に関する内閣府令第299条第1項第28号に規定されるその他業務（信用格付業以外の業務であり、かつ、関連業務以外の業務）です。当該業務に関しては、信用格付行為に不当な影響を及ぼさないための措置が法令上要請されています。当大賞に関する著作権等の知的財産権その他一切の権利はR & I等に帰属しており、無断複製・転載等を禁じます。「投資信託／総合部門」の各カテゴリーは、受賞運用会社の該当ファンドの平均的な運用実績を評価したもので、受賞運用会社の全ての個別ファンドについて運用実績が優れていることを示すものではありません。

●委託会社・その他の関係法人

委託会社	ファンドの運用の指図を行います。 損保ジャパン日本興亜アセットマネジメント株式会社 金融商品取引業者（関東財務局長（金商）第351号） 加入協会 一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会 ホームページ： http://www.sjnk-am.co.jp/ 電話番号：0120-69-5432 ●クライアントサービス第二部
受託会社	ファンドの財産の保管及び管理を行います。 みずほ信託銀行株式会社（再信託受託会社：資産管理サービス信託銀行株式会社）
販売会社	受益権の募集の取扱、販売、一部解約の実行の請求の受付、収益分配金の再投資ならびに収益分配金、償還金および一部解約金の支払等を行います。 株式会社イオン銀行 登録金融機関（関東財務局長（登金）第633号） 加入協会 日本証券業協会

当資料のご利用にあたっての注意事項

- ◆ 当資料は、損保ジャパン日本興亜アセットマネジメント株式会社により作成された販売用資料であり、法令に基づく開示書類ではありません。当ファンドの購入のお申込みの際には販売会社より投資信託説明書（交付目論見書）をあらかじめ、または同時にお渡しいたしますので、必ずお受け取りの上、詳細は投資信託説明書（交付目論見書）をご確認ください。
- ◆ 当ファンドは、値動きのある証券に投資しますので、基準価額は大きく変動します。また、外貨建て資産に投資する場合には、為替リスクがあります。投資信託は、リスクを含む商品であり、運用実績は市場環境等により変動します。したがって、元本が保証されているものではありません。
- ◆ 信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者の皆様へ帰属します。投資に関する最終決定はご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。
- ◆ 投資信託は、預金や保険契約と異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。
- ◆ 登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の保護の対象ではありません。
- ◆ 当資料に記載されているグラフ・数値等は過去の実績を示したものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。分配金に関しては、運用状況によっては、分配金額が変わる場合、或いは分配金が支払われない場合があります。
- ◆ ファンドマネージャーのコメント、方針、その他の予測数値等については、作成時点での投資判断を示したものであり、将来の市況環境の変動等により、当該運用方針やその他予測数値等が変更される場合があります。また、記載した内容は、将来の市況環境の変動等を保証するものではありません。
- ◆ 当資料に記載されている各数値は四捨五入して表示していることがありますので、誤差が生じている場合があります。
- ◆ 当資料に記載されている各事項につきましては、正確性を期しておりますが、その正確性を保証するものではありません。当資料に記載の当社の意見等は予告なく変更することがあります。